

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.127 - 2019年7月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

親愛なる会員、友人の皆さん、

今月、私たちは、教皇フランシスコと共に、宣教の心をもって、真福八端の6つ目の幸いに耳を傾けます：「心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。」「愛を曇らせるものものいっさいない真つ更な心を保つ、それが聖であるということです」(『喜びに喜べ』86)。

宣教顧問はよく尋ねられます。サレジオの宣教地で、今日、最も“危険”なのはどこかと。答えは明白です：サレジオ会宣教師にとって最大の危険は、宣教の心を失うことです。したがって、それが最も危険な“場所”、最も恐れるべきことです：使徒的情熱が曇ったり、弱まったりすることです。宣教の心の清さを成り立たせるのは：使徒的炎を常に燃え立たせていること、明るく燃え立たせていることです。そのためには、注意深い日々の霊的修徳が、まさに弟子-宣教師に求められます。ドン・ボスコのように、サレジオ会宣教師は、日々の良心の糾明を心をこめて行います。ゆるしの秘跡に頻繁にあずかります(会憲第90条参照)。私はメールで、Whatsappで、また顔と顔を合わせて、しばしば宣教師たちに尋ねます：「親愛なる宣教師の兄弟、告解を頻繁にする機会がありますか？」

使徒的情熱を曇らせるあらゆることから心を清く保つこと、ここにサレジオ会宣教師の秘訣と力があるのです。

宣教顧問 ギジェルモ・バサニェス神父



J. Basanes

特別宣教月間

教皇ベネディクト十五世の使徒的書簡マクシムム・イルドの100周年を記念し、教皇フランシスコが発表した来たる10月の特別宣教月間(Extraordinary Missionary Month)に向け、宣教部門は、それぞれの活動の場で教会の福音宣教の働きを再び活気づけようとしている全サレジオ会員と、司牧の分野で働くすべての人のために、道具を準備しました。「洗礼を受け、遣わされている - この世で宣教の使命に遣わされているキリストの教会」というEMMのテーマと同じ題をもつこの冊子は、聖霊降臨の祭日、6月9日に正式に発表されました。サレジオ会宣教部門が編集したこの冊子は、2019年10月の一か月間、読者・宣教師・宣教グループと共に歩む日記の形になっており、一日ごとに振り返るためのさまざまな要素を提供します。内容として次の項目があります：

- マクシムム・イルドからの引用； - 同じ主題に関連する聖書の箇所； - ベネディクト十五世とそれ以降の教皇の教えの考察；
教皇フランシスコの言葉； サレジオ会の文書からの言葉。

読者が振り返るために提供されるこの幅広い諸要素にさらに加えられ、毎日の振り返りを完成させる二つの部分があります：一つ

は、話し合いや考えの分かち合いのため、具体的な活動を提案するためのポイントを挙げたコラム；もう一つは、その日の聖人のコラム。その聖人にゆかりのある国の教会の必要のために祈ります。

この資料は、サレジオ会共同体で朝の黙想、あるいは夕の祈りの代わりに使うことができます。学校のグループや教会、オラトリオ、施設なども、活動を活気づけるために用いることができるでしょう。英語とイタリア語で印刷された冊子の部数は限られていますが、それぞれの文化・言語に合わせた版を各管区や事業所で作ることができます。フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ポーランド語、ベトナム語などの翻訳も出来ています。

さらに：この取り組みの目的は、教会の世界的な福音宣教の働きを支持することです。宣教部門は、出来上がっている冊子を活用したいと願う教会のグループがあれば、誰にでも、編集可能なデジタルpdfの形でレイアウトされた資料を提供します。それぞれのニーズに合わせて内容を変え、既存のレイアウトを使うことができます。各修道会や各地の教会に無料で提供します。

冊子を編集したジョージ・メナムパランピル神父、SDBは、「私たちはただ教会の役に立ちたいのです」と語っています。

資料に興味のある方、さらに詳細を知りたい方は、こちらへご連絡ください：

mcgeorge@sdb.org





宣教は常に奉仕すること

パキスタンのラホールに来て一年近くになります。ここはすべてがそろったサレジオの事業です：寮、小学校と中等学校、技術訓練校、土曜のオラトリオ、そのほかたくさんの活動があります。この支部を運営する私たちサレジオ会員は三人だけです。約200人の子どもと若者が私たちと一緒に暮らしたり、私たちの教育活動や奉仕活動に参加したりしています。

神様は、この仕事のために時間をかけて私を準備したと言わねばなりません。私は初誓願の直後に(21年前)、すべての人

への宣教mission ad gentesに自分をささげる意志を表明する最初の手

紙を総長に送りましたが、パキスタンに行く許可をもらったのはようやく2016年になってから

でした(司祭になって10年後)。しかし、ビザのためにさらに二年、待たなければなりませんでした。

養成期間中、そしてサレジオ会員となって最初のころ、神が私たちにゆだねられる宣教の使命は将来だけのことでも、遠い国のことでもないという理解しました。使命は、まさに私たちが毎日暮らす時と場なのです。若者と周りの人々に惜しみなく献身する奉仕、共同体の中で生活を分かち合うこと、そして特に祈りです。サレジオのミッションは今という時にあります。人生・生活は常にミッション、奉仕、学びの道です。

どのミッションも、ここパキスタンで今自分がしていることの準備になったと私は気づきました。そしてこのすばらしいミッションは、次のミッション、神が指し示してくださる時と場のために私を備えさせてくれると。準備と期待の期間、強めなければならなかった徳の一つは、間違いなく「忍耐」でした。忍耐は、従順と信仰においても私を成長させてくれました。

私は今、ここパキスタンでとても幸せです。なぜならサレジオ会司祭としての私の人生は子どもや若者と共にいるときはじめて意味がありますが、ここで私は子どもや若者たちに囲まれているからです。私の修道共同体、兄弟であるサレジオ会員、ノブレ神父とベルナルド修士が、習慣や文化、言葉や考え方の違いにかかわらず、手を広げて温かく迎えてくれて、私は幸せです。人間として成長しつづけ、サレジオ会員としてのあり方を学びつづける機会を神が与えてくださるので、私は幸せです。



メキシコ出身、パキスタンの宣教師 ガブリエル・クルス, SDB

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメロー二神父



神の僕ニノ・バリエリ(1951 - 2007)はその生涯の間に重要な回心の旅を完成させました。御父に自分をゆだねて形づくられ、自分の苦しみを、喜びあふれて良き知らせを告げ知らせることへと変容させました。回心によって、人のために献身したいという望みがニノのうちに目覚めました。彼はまず、サレジアニ・コオペラトリー会員となり、次いで自らを全面的に主に奉獻することを選び、CDB (Volunteer with Don Bosco ドン・ボスコ男子在俗会) 会員となりました。ニノは言っています：「つまりね、すべては聖霊の働きで、僕が主に『はい』と言ったとき、主に心を開いたとき、すべて始まったんだ。僕は全く動けない：主の友人たちを通して、僕の義理の兄弟を通して、家族を通して手足を与えてくださるのは主なんだ。苦しんでいる僕たちには健康なあなたたちが必要で、あなたたちには僕たちが必要だ……天国を手に入れるために。すぐ隣にいる兄弟を愛することができたか、主はそれだけを僕らに問うだろう。」

アメリカ大陸のサレジオ家族のために



サレジオ会の宣教の意向

主が、アメリカ大陸のサレジオ家族を守り、豊かに実を結ぶものとしてくださいますように：教育を通して、平和と正義の促進を通して、福音が広まりますように。

サレジオ会は、アメリカ大陸の24か国に510の共同体があり、5万3千人以上の信徒協働者が共に働いています。教会の中のこの豊かな存在が、新福音宣教のための、また正義と愛によって築かれる新しい文明のためのパン種となるよう、祈りましょう。

